

山スクール T1 実技③ 金剛山で歩行技術とコンパスの基本

2021.10.03 Sunday

講師 田中・引網

生徒 7名

ルート 百ヶ辻～念仏坂～寺谷～山頂広場～山頂（1125M）～文殊尾～文殊尾中尾根～念仏坂～百ヶ辻

歩行方法、危険箇所の通過、歩行ペースなどを講習しながら、金剛山山頂を目指した。
下山時は方向を間違えやすい文殊尾をコンパスを応用してルートを確認して進んだ。



緊急事態宣言が解除され、よーやく対面での活動が出来るようになりました。
山スクール T1 の実技も4月以来、これから忙しくなります👏

今日は念仏坂～寺谷～山頂～文殊尾のルートを辿ります。



足の置き方から復習します。



寺谷、涼しくて快適でした。



山頂を目指しながら要所要所にアドバイスを重ねて行きます。



山頂の転法輪寺



現在地から進行方向を割り出します。



プレートコンパスは便利なツールですので、しっかりマスターをしてください！





下りを克服すれば無雪期は大丈夫です。



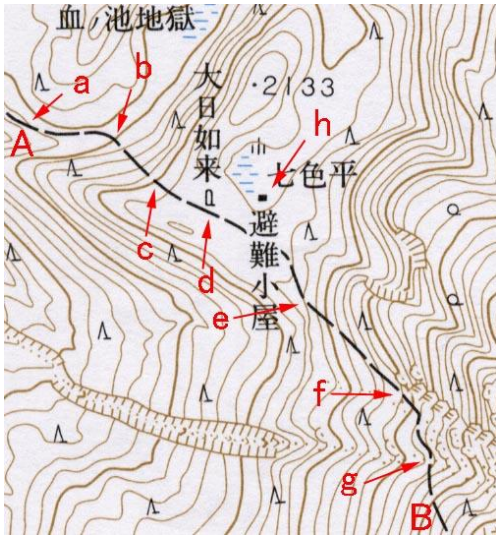
全員集合、今月はあと2回もありますよ♪

地図を読むには（読図）

地図を読むとは想像することです。それも科学的で合理的な判断に基づくものであるものでなければなりません。そして、さらに必要なものは経験です。山に登っているだけでは読図の経験にはなりません。一般道を歩いていると地図は必要がないかもしれません。特に地形図まで必要になることは稀で、登山地図があれば困ることはないでしょう。

登山地図は想像や判断をあまりしなくても感覚でわかりやすいように作られており、プランニングには大変有効です。ただ、基本の地形をかなり簡略化されており、高低差や細かい地形を把握できません。全体を知るには登山地図、細かいポイントを知るには地形図が必要となるのです。

読図力を高めるには講習会などを利用して時間をかけて学ぶことがお勧めです。ここではGPSアプリを含めて、今後の読図に必要な基本的情報を記します。



地形図



登山地図

A から B へ進む時の地形変化

a の位置では、登山道が下がっています。等高線で 1 本以上下がっていますから、15 ~ 20m は下がっていると見ていいでしょう。これだけ下がってれば、はっきりと認識できるはずですが、a

b の位置から登山道は急な登りに変化しています。実際現地でもこの登りの傾斜の変化は明らかにわかるレベルでした。そして、登りきった位置 = c と d の大日如来は 2 ~ 3 分しか離れていません。d ~ e も 5 分程度。ここで急な登りに変わって、f の位置で切り立ったガケの直下へ出ます。そして、g の位置で沢を横切り、B に到着します。

(tozan.net より引用)

25000 分の 1 地形図 (国土地理院発行)

全国を 4344 枚でカバーしており、1 枚は約 10 km 四方である。精度が良く登山で多く使われる。

主曲線 10 メートル間隔の細い線

計曲線 50 メートル間隔の太い線

地図上の 1 cm = 250m

地図上の 4 cm = 1 km

